令和3年度　岩国ひがし学園　岩国市立東中学校　学校評価書

校長（　村井　浩司　）

1 学校教育目標

○小中一貫教育目標 ……　「ふるさとを愛し、ふるさとの人々からも愛される子どもたち」の育成　　○めざす子ども像 ……　①自分をつくる子　②仲間をつくる子　③未来をつくる子
○東中学校教育目標 ……　仲間とともに、地域とともに、知・徳・体のハーモニーを奏で、未来を描く生徒の育成
○チャレンジ目標 ……　①先手挨拶 で心を開こう　②感謝清掃 で心を磨こう　③美しく思いやりのある言葉 で心を伝え合おう　④学びに向かい 心を鍛えよう
○中・長期目標 ……　①自己指導能力を身に付けさせ、将来、自己実現を図ることのできる（自立した）生徒を育成する。
②「生徒、及び、教職員が自信と誇りにあふれ、つながり日本一」の学校づくりを推進する。また、生徒・保護者・地域住民が「行きたくなる」学校をめざす。
③市内外に誇れる小中一貫教育校（施設一体型、分離型の共用）として成果を積み上げ、「新しい・ひと味違う」学校・生徒・教職員・保護者・地域住民を生み出す。

2 現状分析（前年度の評価と課題を踏まえて）

○生徒は日々落ち着いた、メリハリのある学校生活を送っている。また、コロナ禍で様々な制限があったが、生徒会を中心として様々な行事や取組を活性化させようと努力している。
○挨拶や清掃活動、部活動、各種集会における生徒の取組は概ね意欲的である。新校舎を丁寧に、きれいに使っている。
○生徒、及び、保護者の教員の指導に対する評価が高く、信頼度は高い。
○小中一貫教育の体制が整い、今年度からは成果を積み上げる年であるという教職員の意識が高まっている。
●授業は概ね落ち着いた雰囲気の中で進んでいるが、生徒の「主体的に学習に取り組む」姿勢が課題である。また、学力定着のため、「家庭学習」の充実が課題である。
●生徒指導面では、不登校生が多く、小学校からの継続して欠席している生徒もいる。多くの場合、人間関係形成力や家庭に課題があり、関係機関と連携したさらなる働きかけが必要である。また、岩国市要保護児童対策地域協議会対象生徒が複数いる。
●教職員の業務改善が大きな課題であり、「ワークライフバランス」の視点での意識改革とともに、諸行事や活動の精選が急務である。
●コロナ禍、感染症対策の充実と感染防止策を講じた授業や行事、取組の実践が引き続き求められる。

3 本年度重点を置いて目指す成果・特色、取り組むべき課題

Ⅰ　学習環境を整え、個に応じた、基礎・基本の定着と確かな学力の向上を図る。
　☆ 小中連携による9方年のカリキュラム編成と実践　　☆ 補充学習（個別指導）の充実による基礎基本の定着　　☆ タブレット端末の効果的な活用による学習意欲の向上　等
Ⅱ　生徒の規範意識の醸成と、敬愛と信頼に基づいた生徒指導を推進する（寄り添い、関わり続ける生徒指導）
　☆ 生徒の達成感・自己有用感・自己肯定感の醸成　　☆ 特別支援教育に対する理解の深化（合理的配慮）　　☆「ま・ほ・う」の言葉の実践　等
Ⅲ　校内かなと健やかな体づくりを推進し、生徒の心と体の元気を創造する
　☆ 道徳教育、人権教育の充実と人権感覚・人権意識の醸成　　☆ 地域貢献活動（ボランティア活動）の活性化　　☆ 限られた活動スペースでの体力維持と向上　等
Ⅳ　校内研修を充実させ、教職員の資質・能力（授業力・指導力・危機対応力等）の向上を図る。
　☆ 校内研修の活性化、一人1授業公開の活用　　☆ 小中高連携英語教育推進事業への積極的な取組　　☆ 学力向上推進リーダー・英語教育推進教員の有効活用による授業力向上　等
Ⅴ　コミュニティ・スクール、並びに、ふるさと愛ネットを基盤とした小中一貫教育を推進し、地域から愛される学校づくりを行う。
　☆ 小中一貫教育の5つのつながりの具現化　　☆「学び・こころ・からだ・つながり」プロジェクトの活性化　　☆ 学校情報の発信の充実　等
Ⅵ　教職員の業務改善を一層推進し、働きやすく、やりがいのある職場づくりを行う。
　☆ 教職員の協調性、同僚性、相互支援意識の醸成　　☆ 人材育成の推進　　☆ 業務の見直し　等

【生活目標（チャレンジ目標）】

スローガン：　喜びを与えよう　今日出逢う人々に

□　「先手あいさつ」　で　心を開こう！
□　「感謝清掃」　で　心を磨こう！
□　「美しく思いやりのある言葉」　で　心を伝え合おう！
□　「学びに向かい」 心を鍛えよう！

4 自己評価

評価領域	重点目標	具体の方策（教育活動）	評価基準（ポイントは4点満点）	取組状況および成果・課題【ポイント】は関連質問　生：生徒、保：保護者、教：教員の評価	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析
教育課程・学習指導（Ⅰ・Ⅳ）	新学習指導要領に対応した授業改善の加速化と授業力向上	① 校内小中合同授業研究会を実施し、学力向上推進リーダーなどを講師に招聘し指導を受ける。 ② 平素から、一人1授業公開に努め、授業力向上を図る。 ③ 新しい学習評価を導入するにあたり、新しい観点での見取りを各教科で研究し、実践する。	学校評価アンケート（生徒・保護者・教職員）、及び、授業評価アンケート（生徒）における関連質問 4　平均評価ポイント　3．6以上 3　平均評価ポイント　3．2以上　3．6未満 2　平均評価ポイント　2．5以上　3．2未満 1　平均評価ポイント　2．5未満	① 特別支援教育・全学調査分析・ICT（タブレット）研修などを合同で実施し、共通理解ができ、共通実践につながった。講師を招聘したICT研修により、児童生徒・教員の活用頻度が増加した。 ② 全員が一度は一人1授業を行い、それぞれ5～10名の参観があり、お互いの授業力向上につながった。 ③ 新しい学校評価への対応は昨年来行っており、本格実施に入り、様々な観点で見取る工夫が見られた。教科ごとの協議も進んでいた。また、保護者向けリーフレットも完成し、配付・周知した。 【ポイント】教：3．38　　教：3．24	3	学校評価結果（教職員）によると、授業改善意識は高いが、実践には十分につながっていない。特に、コロナ禍にも影響され、主体的・対話的で深い学びについては、引き続き課題である。 タブレット端末の活用頻度は増えたが、個人差があり、十分に使いこなせていない。 授業評価（生徒）によると、、教員の授業に対する評価は高く、めあて・話し合い・振り返りの意識が浸透している。教科間・個人間では若干の差がある。 全体としては、授業力の向上は見られる。
	家庭学習の充実	① 家庭での学習習慣の確立のため、自主学習ノートや課題プリントを提出させる。質の向上を図るための個別指導を充実させる。 ② 家庭学習の充実のための働きかけを、手引きに基づいて啓発する。	学校評価アンケート（生徒・保護者・教職員）、及び、授業評価アンケート（生徒）における関連質問 4　平均評価ポイント　3．6以上 3　平均評価ポイント　3．2以上　3．6未満 2　平均評価ポイント　2．5以上　3．2未満 1　平均評価ポイント　2．5未満	① 自主学習ノートは各学年で実施され、生徒の家庭学習充実の一覧を担っている。しかし、その取組には個人差があり、指導を要した。中には、充実したノートを掲示するなどの工夫も見られた。 ② 家庭学習の手引きは、教室掲示に加え、個々に配付され、また、タイムリーに担任から啓発した。 ③ 週末課題は、学年の状況に合わせて実施した。8・9年生は、セミナーを活用し、家庭学習の充実を図った。 【ポイント】生：2．78　　保：2．55　　教：2．90	2	学校評価結果（生徒）によると、2時間以上の学習時間が23%、学年想定時間～2時間が31%となり、昨年より増加している。学年で大きな差があり、学年想定時間未満の生徒は、7年で39%、8年で57%、9年で39%であった。 小学校からの学習習慣の定着が求められる。一方、授業を通じて学習意欲の喚起と適切な課題を与えることも必要である。 家庭学習は不十分であり、今後、やまぐち学習支援プログラムの活用が考えられる。
	わかる授業・できた喜びを実感できる授業の展開	① 岩国市授業スタンダードの徹底 ② 補充プリントの工夫・充実 ③ 少人数指導の工夫（数学科） ④ 一人1台のタブレット端末を授業などでの活用（AIドリルの積極的活用）	学校評価アンケート（生徒・保護者・教職員）、及び、授業評価アンケート（生徒）における関連質問 4　平均評価ポイント　3．6以上 3　平均評価ポイント　3．2以上　3．6未満 2　平均評価ポイント　2．5以上　3．2未満 1　平均評価ポイント　2．5未満	① 全ての教員が、めあて・話し合い活動・振り返りの流れで授業を展開し、概ねよい評価であったが、コロナ禍、十分な話し合い活動はできなかった。 ② 各教科とも、補充プリントやワークシートを活用し、理解を深めさせていた。タブレットを活用し、視覚教材が充実した。 ③ 数学科の少人数指導は他の全教員によるT2体制で行い、個に応じた課題を行うことで、成果をあげた。 【ポイント】生：3．71　　3．63　　3．46　　教：3．24　2．95	3	授業内容の理解度はあっても、定着しない傾向がある。復習としての家庭学習の充実が求められる。 授業評価結果（生徒）によると、授業内容の理解度の平均は80%以上ある。しかし、各種テストの結果には表れていない。家庭学習での繰り返しによる定着が求められる。 なお、生徒は落ち着いて授業に臨んでいる。授業内では、「わかった」という反応があり、「できた喜び」を多くの生徒が実感している。
生徒指導（Ⅱ・Ⅲ）	生徒の規範意識の向上と寄り添う指導	① 生徒指導部会を隔週で開催し、情報を共有するとともに、指導の方向性を確認する。 ② 生活アンケートなどを毎週実施し、問題の未然防止及び早期発見・対応に努める。 ③「ま・ほ・う」の言葉を常に意識した指導・支援を行う。	学校評価アンケート（生徒・保護者・教職員）、及び、授業評価アンケート（生徒）における関連質問 4　平均評価ポイント　3．6以上 3　平均評価ポイント　3．2以上　3．6未満 2　平均評価ポイント　2．5以上　3．2未満 1　平均評価ポイント　2．5未満	① 隔週で各部会を開催し、学年生徒指導間で共有され、早期対応・早期解決につながった。 ② 生活アンケートによる情報を得て、すぐに対応したことで早期解決につながった。しかし、アンケートがマンネリ化しないような工夫が求められる。また、日々の声かけも継続する必要がある。 ③「ま・ほ・う」の言葉は、教員間に浸透しつつあるものと思われる。生徒との良好な人間関係が見られる。 【ポイント】生：3．62　　3．82　　保：3．28　　3．22　　3．47 教：3．43　　3．14　　3．19	3	学校評価結果（生徒・保護者）によると、教員の指導に対する評価は極めて高い。 「間違った行動をきちんと指導してくれる」・「能力や努力を公平に評価してくれる」・「困ったことや悩みに丁寧に相談にのってくれる」の肯定評価が昨年同様に、90%を超える。 一部の生徒に規範意識の欠如が見られるが、全体としては落ち着いた生活を送っている。
	特別支援教育の視点に立った生徒指導	① 教育相談部会を隔週で開催し、個々の生徒の状況を共有し、支援にあたる。 ② 外部機関との連携を密にする。（教育支援教室、こども支援課、児童相談所等） ③ 特別支援教育（合理的配慮など）に関する研修を実施する。 ④ 個別の支援計画に基づき、きめ細やかな支援を心がける。 ⑤ 部活動の削減計画に着手する。	学校評価アンケート（生徒・保護者・教職員）、及び、 授業評価アンケート（生徒）における関連質問 4　平均評価ポイント　3．6以上 3　平均評価ポイント　3．2以上　3．6未満 2　平均評価ポイント　2．5以上　3．2未満 1　平均評価ポイント　2．5未満	① 定期的な部会の開催ができ、情報が学年教育相談により提示され、全職員で共有することができた。SCや児童、支援教室等との連携は密にされていた。情報の蓄積と整理が課題である。 ② 今年度は特に、児相との連携が密になされ、対象生徒への支援を協力して行うことができた。一時保護や通院の付き添い、施設入所など、児相が主導で行っていただいた。 ③ 主に、SCを活用した課題解決が充実し、来校日には担当者との綿密な情報共有と課題解決に向けた協議が行われた。小学校所属の地域コーディネーターからの支援が得られた。復伝研修をして、特別支援教育への理解を図った。 ④ 特別支援教育支援員を活用し、個に応じた指導・支援を行った。 ⑤ 部活動希望アンケートを実施し、状況把握を行った。 【ポイント】生：3．65　　保：3．35　　教：3．14	3	学校評価（教職員）によると、「問題行動に対する組織的な対応」に対する肯定評価は90%を超えた。一方、「教育相談体制」に対する肯定評価は昨年より下がって85%であった。分業制によるデメリットが表れた。 「ま・ほ・う」の言葉を意識した指導については、21人中20人が肯定評価である。 今年度は、課題を抱えた生徒・保護者に対して、関係機関、とりわけ、岩国児童相談所が積極的に関わってくださり、大変助かった。 教員の言動については、特別支援教育の視点をふまえたものになっている。
	生徒会活動の活性化	① 生徒会スローガンの具現化 ② 各委員会の活動の活性化「あいさつ運動」・「感謝清掃」・「読書啓発」・「校内放送」・「環境整備」・「残食調査、給食指導」・「服装点検」・「ボランティア活動」等の活動を各専門委員会が充実させる。	学校評価アンケート（生徒・保護者・教職員）、及び、授業評価アンケート（生徒）における関連質問 4　平均評価ポイント　3．6以上 3　平均評価ポイント　3．2以上　3．6未満 2　平均評価ポイント　2．5以上　3．2未満 1　平均評価ポイント　2．5未満	① スローガンの提示が遅れたが、様々な活動を通して、生徒全員で取り組む雰囲気ができている。生徒会の自主的な企画・運営ができ、各行事で熱いパフォーマンスが見られた。 ② 委員会活動の取組には若干差がある。執行部に頼らない独自の企画・実践が増えるとよい。主な活動は、図書：読み聞かせ・学級文庫、環境：朝掃除・用具管理、給食：各調査・啓発活動、総務：授業規律指導、生活：昼休みボール管理など。 【ポイント】生：3．35　　3．45　　保：3．13	3	学校評価（生徒）によると、「あいさつ」・「清掃」・「思いや言葉」・「学び に向かう」の目標のうち、「あいさつ」を除いて肯定評価はすべて90%を超えている。 生徒会活動に対する評価は高いが、執行部と委員会との業務分担や委員会の活性化など、課題は多い。しかし、コロナ禍にもかかわらず、充実した活動を行ってくれた。 全体に、コロナ禍の制限下、よりよい活動をめざして取り組んでいる。
家庭・地域社会との連携（Ⅴ）	コミュニティ・スクールと地域協育ネットの深化・充実	① 学校運営協議会を年6回開催するとともに、その内容を充実させる。 ② ふるさと愛ネット協議会を年4回開催するとともに、その内容を充実させる。特に、学校未校者数を増加させる。 ③ 学校支援・地域貢献活動を充実させる。 ④ 保育園・幼稚園との交流を推進する。	学校評価アンケート（生徒・保護者・教職員）、及び、授業評価アンケート（生徒）における関連質問 4　平均評価ポイント　3．6以上 3　平均評価ポイント　3．2以上　3．6未満 2　平均評価ポイント　2．5以上　3．2未満 1　平均評価ポイント　2．5未満	① 年間6回開催し、その都度、現状報告と課題に対する指導・助言をいただいた。学校評価について協議する際は、時間をかけてじっくりと行った。特に、小中一貫教育に係る生活規律カリキュラムや公園の使用について、熟議を行うことができた。 ② ふるさと愛ネット協議会も兼ねて開催したが、コロナ禍、交流活動については例年通りの活動ができなかった。生徒のボランティア参加回数も少なかった。 ③ 4部会にバランスよく活動が計画されていなく、また、通年での活動も多く、充実度は低い。学校支援活動が少なく、大きな課題である。 ④ 幼稚園・保育園とは保育実習・職場体験学習による交流が図られたが、コロナ禍、中止となった。しかし、文房具を3園に配付し、喜んでいただいた。 【ポイント】生：1．96　　3．36　　保：3．28　　教：3．19	2	学校評価（生徒）によると、地域貢献活動の参加への肯定評価は、コロナ禍、32%にとどまった。通年の貢献活動は、「あいさつ運動」や「生け花教室」などがあるが、地域支援活動はできなかった。 一方、学校評価（保護者）によると、「子どもは地域の行事や活動に積極的に参加している」について、肯定評価が50%と、あまり高くない。コロナ禍、地域行事の中止などの影響が出ている。 来年度は、学校支援を含めて今後充実させたい。
	小中一貫教育の推進と成果の発信	① 5つのつながりを意識して、東中学校区小中一貫教育を推進する。 ② 小中一貫教育合同研修会を3回開催する。 ③ 9方年のカリキュラムを実践・修正する。新カリキュラムの編成。 ④ 小中間の相互支援活動、交流活動を充実させる。 ⑤ 小中共通課題克服のための協働の取組を進める。	学校評価アンケート（生徒・保護者・教職員）、及び、授業評価アンケート（生徒）における関連質問 4　平均評価ポイント　3．6以上 3　平均評価ポイント　3．2以上　3．6未満 2　平均評価ポイント　2．5以上　3．2未満 1　平均評価ポイント　2．5未満	① 5つのつながりを意識して、今年度は深化・充実の年に位置づけられる。 ② 小中一貫教育合同研修会は3回開催され、4校の教職員が進捗状況を共有する機会となった。小中高連携英語教育推進事業研究発表会も好評であった。 ③ 9方年のカリキュラムは完成し、実践・修正に入ったが、今後は新学習指導要領との整合性を図る必要がある。生活規律カリキュラムも新たに完成した。 ④ すべての施設が整い、岩国ひがし学園としての新しい取組が期待される。4校による相互支援活動・交流活動は定期的に行われている。 その他　小中ギャップ・教員の授業力向上のための「小学校への乗り入れ授業」・「出前授業」は一人1回以上行うことができた。 【ポイント】生：3．17　　3．16　　3．09　　2．82 保：3．13　　3．14　　3．09　　3．12　　3．14 教：3．00　　3．29　　3．05　　2．90 【その他】新カリキュラム「美・礼・時」の発信	3	学校評価（教職員）によると、小中一貫教育について、「ねらいを理解している」・「めざす子ども像に向けて取り組んでいる」の肯定評価は80%を超えるが、・「9方年のカリキュラムを意識して実践している」について、肯定評価は71%に止まり、不十分な面がある。 小中の交流活動は、コロナ禍ではあったが、可能な限り行った。（入学式・避難訓練・引渡訓練・音楽交流・始業式・終業式・合同授業・あいさつ運動など） 教職員の研修などを通しての交流や情報共有は十分にできている。
人材育成・業務改善（Ⅳ・Ⅵ）	人材育成	① 校内研修会を毎月開催する。（授業・一般） ② 校外研修の復伝を推奨する。 ③ 校内網紀保持研修を各担当者がマネジメントする。 ④ 初任者研修に全教員が参画する。（1000日プラン）	一人1授業、校内研修（授業、一般）、各種校外研修の復伝回数の合計（教職員） 4　合計40回以上 3　合計30回以上 2　合計20回以上 1　合計10回未満	① 一人1授業は確実に開催でき、合同での授業研究会も2回開催できた。英語教育研究発表を合わせると、3回、7名の授業について研究した。 ② 校外研修の復伝は、すべての研修会とはいえないが、行われた。 ③「網紀保持」に係る研修会に特化しては行うことはしなかったが、職員朝礼や職員会議の中で、ただたび情報提供や指導・注意喚起などを行った。 【回数】一人1授業：のべ24　　校内研修：7　　復伝：6	3	一人1授業は計画的に順調に進み、複数の教員が見合い、推進リーダーの指導・助言を受けながら、研修を深めることができた。初任者も順調に研修を進め、他教員からのOJTも機能した。 次年度は、教職員の他分野での資質向上を図るためにも、小中一貫教育以外の研修や授業研究を充実させたい。
	OJT、Off－JTの推進（初任者研修の活用）					
	業務改善	① 職員会議を勤務時間内に終えるため、運営委員会を充実させる。 ② 校務分掌を複数担当制にし、個々の負担を軽減する。 ③ 部活動運用規定を遵守し、効率的な運営につなげる。（部活動削減計画を含む） ④ 学校、及び、育友会行事を精選する。	時間外業務時間数の平均（教職員） 4　昨年度比90%未満 3　昨年度比90%以上95%未満 2　昨年度比95%以上100%未満 1　昨年度比100%以上 学校評価（教職員）における関連質問 ・年休の取りやすさ、部活動規定遵守、働きやすい職場 学校評価アンケート（教職員） 4　平均評価ポイント　3．6以上 3　平均評価ポイント　3．2以上　3．6未満 2　平均評価ポイント　2．5以上　3．2未満 1　平均評価ポイント　2．5未満	① 6校時後の職員会議設定であり、小中合同職員会議を終えてからの開催となったため、勤務時間を超過することがあった。しかし、運営委員会での事前提案・協議は有効であった。 ② 複数担当制にしても、やはり、一人の教員に頼ってしまう傾向があった。生徒会や生徒指導・教育相談は協力体制ができていた。 ③ 部活動の休養日規定は確実に遵守されている。コロナ禍、大会などの中止があったことで教員は時間を生み出せたようだ。 ④ 年間でいくつかの行事を削減するとともに、コロナ禍に合わせ、縮小開催した行事があった。 【時間数】昨年度比　＋10% 【ポイント】教：2．86　　2．71　　3．10　　3．48（働きやすい職場）	2	部活動規定の遵守により業務量が減少傾向にある。しかし、通常業務は一向に減っておらず、むしろ、教員はよりよいもの、より創意工夫を加えたものをめざす傾向が見られ、全体として増加している。 業務時間記録では、1月までの平均時間は、77時間で、昨年度比＋11時間となっている。 学校運営の質、教育課程の質、教職員の資質を下げずに業務改善に取り組むことの困難さを感じている。 今後は他校の実践事例を参考に、取り組みたい。

5 学校関係者評価

学校関係者からの意見・要望等	評価
○教員の授業改善と授業力向上のための研修が充実していることはよい。 ○ICTの活用に際し、教員個々の知識や技術に差が出ないよう、研修を充実させてほしい。また、生徒間の格差についても同様である。 ○学校から出される家庭学習の課題はどの程度なのか。塾との兼ね合いで、どの程度の負荷が必要かを話し合ってほしい。 ○授業内では理解しているものの、定着に課題があるため、繰り返し学習を推進してほしい。	3
○教員が、「生徒の間違った行動に対し、適切に指導している」や「能力や努力を公平に評価している」が高い数値に表れている。引き続きお願いしたい。 ○生徒の規範意識の向上については、学校だけでなく、家庭・地域が一体となって身に付けさせる必要がある。 ○家庭の教育力が不十分なことにより、不登校生徒が増加していることは憂慮すべきであり、地域としてできることを探っていきたい。 ○課題を抱える子どもや家庭について、関係機関とすぐに連携していることはよい。	3
○コロナ禍、地域行事が中止となり、とても残念である。一日も早く収束し、復活させたい。その折には、中学生に手伝ってもらいたい。 ○地域の子どもの数の減少が気になる。活気溢れる学校、地域であってほしい。 ○小中一貫教育の推進については、これからも成果を情報発信してほしい。小中の交流活動がもっと増えることで、生徒や保護者の認知度や評価が変わってくるであろう。 ○新カリキュラム「美・礼・時」は、4地域で話し合った成果と言える。	3
○若手教員が立派に独り立ちできたことはすばらしい。中堅教員を含め、引き続き資質向上を図ってほしい。 ○毎日夜遅くまで職員室に灯りがついている。業務が減らない限り、意識改革や効率化だけでは無理であろう。どの職場においても、人的な措置が必要である。地域からも声を上げる必要がある。	2

6 学校評価総括（取組の成果と課題）

今年度も前期・後期に実施した。質問項目は経年変化を見るため大き く変えず、また、「小中一貫教育」に係る質問を4校で統一した。さらに、結果のみならず、学校運営協議会委員の意見を反映させたものを保護者に発信した。 学校評価に対する教職員・保護者・学校運営協議会委員の意識が高まったものと思われる。全体として、学習指導・教員研修・地域連携・小中連携・業務改善の分野で、不具合・課題をあぶり出し、改善に向けた道筋をつけることができた。 なお、後期はタブレットを活用し、集計作業の簡略化を図った。来年度は、保護者アンケートについてもスマホ（QRコード）を活用したい。

（1）学習指導　　基礎・基本的事項の定着、及び、学習意欲向上のための取組を工夫・改善することと、生徒の家庭学習の充実のための手立てを講じる必要がある。
（2）教員研修　　授業力向上のための研修会の継続問題が必要である。馴れ合いにならないためにも、外部講師を積極的に招聘することが必要である。また、岩国市スタンダードを意識した日々の実践を全教科で実践する必要がある。
（3）地域連携　　学校支援・地域貢献活動を再活性化させる必要がある。また、CS、地域協育ネットの役割を明確にして、4つの部会が機能するように、役割分担をし、企画・運営にあたることが重要である。
（4）小中連携　　9方年のカリキュラムを意識した小中一貫教育を実践していかなければならない。（特に教科）　小中の教職員間・児童生徒間の交流できちんと活性化させる必要がある。
（5）業務改善　　授業確保の工夫をしながらも、各種会議や研修会の時間を勤務時間内に確保することが必要である。行事の見直し（削減や縮小）を一層進める必要がある。また、市教委に対し、引き続き人的配置をお願いする必要がある。
（6）人材育成　　平素から若手教員に対し、中堅教員・ベテラン教員が意識して指導支援にあたる必要がある。また、負荷がかかりすぎない程度の分掌（役割）を与えることがよい経験となるものと思われる。
（7）生徒指導　　定期的な部会の開催により、情報共有、未然防止・早期発見・早期対応に努めたい。生徒指導と連携して、未然防止・早期発見・早期対応に努めたい。細分化による弊害も見られたので、改善が必要である。関係機関との連携は緊密に進めることができた。
（8）綱紀保持　　ヒヤリハット事案（教師の言動、連絡の不徹底など）があったが、大きな事件・事故には至らなかった。教職員の人権感覚・意識の醸成を含めて、定期・不定期の研修を充実させたい。

7 次年度への改善策

（1）学習指導　　教員の授業力向上に向けて、校内研修会がより充実するよう、指導に長けた講師を招聘する。特に、タブレット活用研修は継続して行う。一方、家庭学習を充実させるため、適度な紙媒体の課題（やまぐちっ子学習プリントなど）を与える。また、補充学習を充実させ、意欲を喚起する。
（2）生徒指導　　生徒指導部会と教育相談部会を頻繁で機能させ、特に情報の共有を充実させる。また、不登校生徒が増加しており、事例検討会や講師を招聘しての研修会を実施する。関係機関との連携をさらに密にする。
（3）連携教育　　小中連携については、一貫教育のもと、9か年カリキュラムを実践・修正し、さらに交流活動を充実させる。地域連携については、コロナ禍収束を見据え、地域との交流活動の再復活の準備を進める。地域住民を交えた学校運営協議会で、地域の課題について熟議を進める。
（4）人材育成　　一人1授業、乗り入れ授業、出前授業で異校種の授業に触れ、授業力の向上を図る。 若手・中堅・ベテランをバランスよく配置し、それぞれの資質能力の向上につなげる。
（5）業務改善　　行事や諸活動の質を落とすことなく、また、正規の教育課程を維持しながら、業務改善を進める。 もちろん、行事の精選・簡略化を同時に進める。
（6）綱紀保持　　教職員の人権感覚を問われる事案が起こることがないよう、不用意な言動に留意させる。そのために も、平素の研修が重要である。タイムリーに不祥事例を紹介し、心にブレーキをかけさせる。